

次に、19 番川原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

皆さん、こんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから、川原千秋の一般質問を始めさせていただきます。

きょう、私 5 番目なんですけど、この時間に 5 番目が始まると本当にこれ 60 分になってよかったなと思っております。(笑い声)そしてですね、やっぱり再放送で見られる方もですね、今までだったら、もう本当にどうかしたら 1 時とかね、なってたんですよ。それがまあ、今回やったら多分 11 時ぐらいにも見れるんじゃないかなと思いますので、本当にこれはよかったなと思っております。

まあそういうことで、今回はまず 1 項目めに武雄市図書館について、そしてまた 2 項目めには、ふるさと納税について質問してまいりたいと思っております。

では早速、まず武雄市図書館についてお伺いをいたします。

昨年 4 月に武雄市図書館がリニューアルオープンをして約 1 年間で入館者が 100 万人を突破したということで、まあこの図書館のリニューアルによる経済効果やテレビ、新聞、雑誌などのメディアで取り上げたその広告効果、これはまあ武雄市にとって、まあはかり知れない効果をもたらしたものと私も認識をいたしております。

さて、このリニューアルオープンから 1 年 4 カ月が経過し、まあこのほど図書館のアンケート調査結果が発表されたわけでございます。このアンケートは、7 月 24 日から 8 月の 5 日までの 13 日間、館内で 300 人の利用者の方に御協力をいただいて、まあ実施されたわけでございますが、前回実施されたアンケート調査結果と今回とこう比較いたしまして、今回のこの調査結果はどうだったのか、まずその点からお伺いをいたしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

いつも図書館を御利用いただきましてありがとうございます。(笑い声)

モニターをお願いいたします。

(モニター使用)こちらが図書館の今回アンケートの結果でございます。8 月の 19 日で、まあ市役所のホームページでも公開しているところでございますが、その主なものとしましては現在の図書館についてどうお感じでございますかという形で投票チェックをしましたところ、大いに満足、それから満足ということで、合計の 87% でございます。前回は 83% ございましたので、こちらでは 4% のアップという形になります。さらに図書館のスタッフのサービスについてはどうですかということで聞きましたところ、これも大いに満足、満足という形で 78%、前回は 69% でございますので 9% のアップという形になっております。これまでオープン以来、指定管理者の C C C とともにお客様の立場にたった図書館として利用

者の要望を聞いてきた、その改善をしてきました、その結果であるということで喜んでおります。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

本当に大いに満足が 24%、満足が 54%ということで、今回 87%。それからスタッフのサービスもですね、69%から 78%ということで、来館者の満足度、これがアップしたわけでございますけど、これ前回よりこのアップした要因といたしますか、そのあたりについて、これどういうことでまあアップしたのか、わかれば伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

図書館につきましては新しい図書館を目指すということで、あくまでも利用者目線で、利用者の方が本当に利用しやすい、居心地のよい空間であるという形を新しい図書館として目指しました。それでいろいろとお客様の御要望を聞きながら、これまで改善をしたところでございますが、それを御紹介いたしますと、(モニター使用)例えばオープンしてすぐでございますが、入りロスターボックスのところからスターボックスのお席のほうへ向かうところでございますが、少し段といたしますか坂になつとりますんで、こちらのほうに坂になってることをスロープになってますので、そこを気づいていただくように点鋏をつくっております。

さらに 2 階のですね、お席でございますけども、そちらのほうには空調がございません、なかなか通らなかったのでございますので、お客様の御意見を聞いてシーリングファンという、こういったファンをつけております。

また 1 階ゆめタウンのほうの入り口でございますが、こちらのほうにはお子様を中心としました、夏場に特にお水を飲んでいただく、そういった形でウォータークーラーをつけております。

このようにお客様のニーズを常に把握しながら、それにお応えしてきた結果だというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

今おっしゃっていただきましたように、その利用者のまあ要望に沿ってですね、いろいろ改善が行われたということで満足度がアップしたということですけど、リニューアルオープンからの、まあ大きな要望等があった、例えば駐車場の不足の問題、それからまた館内の椅子、これが足りないとか、それから前回、きのうだったか出てきておりましたキッズライブ

ラリーの設置等、こういった課題も残されているわけですが、今回のこのアンケート調査結果を踏まえ、このようなことに今後どのような対策を講じていかれるのか、お伺いをいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ昨日の答弁の流れでありますので、私のほうからお答えします。

まず現状で、確かに図書館の駐車場、これCCCからも先日レクチャーを受けましたけれども、平日のもう10時くらいからもう満杯、満車状態になっていると。しかしその一方で、例えば武雄高校の横の部分ですよね、のところはまだ空いてたりとか、もっといえば文化会館のちょうど図書館のほうですよね、のところが空いてたりとか、そこら辺が空いていると。しかしながら利用者の方々に聞いてみるとわかりにくいという指摘がありますので、その駐車場の位置についてわかりやすくサインを出していきたいなと思っています。その上で、キッズライブラリーなんですけども、ちょっとこれ時間がどれぐらいかかるかは別にして、今のところ文化会館のところに設置しようと、文化会館の跡地に設置するということを前提に考えた場合に、これで格段にまた駐車場がふえることとなります。その一方で館内の席、足りないという御指摘については、今度キッズライブラリーの機能がそちらの新しいほうに、ごめんなさい、今の読み聞かせのスペースの部分ですよね、あるいは児童書の部分の大部分が今度キッズライブラリーのほうに移りますので、そういう意味で一般の閲覧席がその分だけこうふえるということになりますので、場合によっては60席以上ふやすことが可能になるかというふうに思っております。

そういった意味で、ちょっとこれは今すぐの話じゃないんですけども、まずできるところから、サインを含めてね、やってきて究極的には駐車場の問題の解消。それともう一つは、館内の席が足りないっていうことは、キッズライブラリーをつくることによって大幅な改善をしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番川原議員

○19番（川原千秋君）〔登壇〕

わかりました。確かに今市長おっしゃいましたように、今の駐車場からほかの駐車場に行く場合ですね、なかなかわかりづらいということも私も聞いておりましたので、ぜひそういう案内板等もですね設置をしていただいて、わかりやすくしていただきたいというふうに思います。

そしてもう一つ私に寄せられた御意見でございましたが、図書館前のあの駐車場がですね、夜間ちょっと暗いなということで、ちょうどあの車どめってありますよね。あれに蹴つまず

いて、転んで怪我したとか、そういった話もちよっと聞きましたので、できればもうちょっと明るくできるのか。それやなかったら、車どめに塗料を塗るなり、ちょっと蛍光塗料でもね。わかりやすいような、そういう対策もぜひとっていただきたいと思いますが、そのあたりについていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

御指摘等点につきましては、すぐ現地のほうで調査をいたしまして、議員おっしゃるような改善策をとりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

よろしくお願ひしたいと思います。

次に図書館スタッフの来館者への対応ということでお伺いをしたいと思います。今回のアンケート調査の中でも、まあ図書館スタッフのサービスについてどうお感じですかと、そういった質問の中で、大いに満足が24%、満足が54%、またどちらでもないという方が20%。

まあそういう調査結果の中で、感じがいいと、また笑顔がいい、そして親切で迅速な対応をしてくれると。そういったことで今回78%の方が満足をされているということでございますが、しかしながら今回ですね、ちょっと大変残念なことが起こりました。と申しますのは、先々月になりますか、6月の終わりごろ、私のところに、知り合いの方から武雄図書館のこととということで、ちょっと話があるというようなお電話をいただいたわけでございますが、そういうことでお会いをしてですね、お話をお伺いしましたら、その方が、図書館でその万引き扱いと申しますか、そういう形にあったということで大変、ちょっとまあ御立腹だったわけでございます。

その話を聞いてみましたら、その日は友達とお二人で図書館におられて、スターバックスでコーヒーでも飲んで、そして本とかCD、5点程度ですか、買われて、例えば手続きも図書館のスタッフの方にさせていただいてですね、それを持って、自分の荷物も持って、玄関のところにしろうとしたら、防犯ブザー、なんていうかセキュリティのブザーがですね、アラームが鳴ったわけですね。何のことかなって、最初わからなかったらしいんですよ、その方は。ちょっと年配の方でもありますから。そこに今度スタッフの方が2人、女性の方が来られて、ちょっとこっちのほうにって言われてですね、連れて行かれたと。入り口のところから中のほうにですね。で、そのときに中のバックをあけて見せてくださいと言われたそうなんです。その方も、なんのこと最初わからなかったけど、出せと言われたら出さないかんとやろと思って、ぱっと出したということで、実際何も、もちろん万引きされたわけでもな

いし何もなかったわけですね。これは誤作動ということなんですけど。そのとき例えばですね、その自分のバッグを持つとって、こっちには図書館から借りた本とかCDも入ってます。調べるなら両方調べなくっちゃいけないんですけど、バッグの、個人的なバッグだけあけると言われたと。こっちは全然調べなかったとか。

またお2人でちょうど出られたもんですから、もう一人の方もですね、同じようにバッグを持ってあったわけですよ、自分の。その方のほうは全然調べなかったとか。そういうちょっと矛盾があるというようなことで、大変御立腹なされておまして。その方がおっしゃるには、何ていうんですかね、そういうアラームが鳴ったときの、その女性スタッフの対応がですね、玄関から中に来たときに、そこで出さされたと。来館者がおられるところですね。そしてそのあとも、終わったから別に問題なかったからもういいですよ、というような形だったもんですから、まあ、ちょっと御立腹なされて怒り心頭というような、そういう感じでした。

そういうことでですね、この盗難防止のアラームが作動したとき、スタッフはどのような対応するように、マニュアルとかありましたらどう対応するようになっているのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

まずもって不愉快な思いをされました御利用者の方におわびを申し上げたいと思います。

先ほどのアラームでございますが、実は図書館では、大切な市民の財産であります図書を管理するという観点から、盗難防止装置を設置させていただいております。何らかに反応いたしましたして、図書館に聞きましたところ1日2、3回アラームが鳴ることがあるという形で報告受けております。その主な理由といたしましてはいくつかございまして、例えば何らかの理由で貸し出し手続きが正常に行われなかった場合。それから館内にはロッカーがございまして、ロッカーの鍵にはICタグがついておまして、ロッカーの鍵を持ったまま退館された場合、そういった場合も反応するようでございます。それから、まれにほかの市町の図書館の本をお持ち込みになったときに反応する場合がございます。

こういったケースがございまして、盗難防止のアラームが鳴るという形でございますが、こうした場合が生じた場合には、図書館のほうではアラームが鳴った場合は、係員がお客様のもとにすぐ駆けつけまして、お客様が動揺されないように御説明をした上で、一旦近くの目立たない場所にですね、お連れをしてお客様の同意を得た上でお客様の荷物を見せていただき、そのアラームが鳴った原因と思われるものを点検させていただいております。

その際に、例えば貸し出し用の書籍につきまして、貸し出しの手続きが正常に行われてない可能性がありましたら、係員が貸し出し手続きをもう一度した上で、盗難防止装置がで

すね、反応しないということを確認して丁寧におわびを申し上げてお客様に退館をしていただくというような対応をしております。

このことにつきましては、図書館のスタッフたくさんいるわけですが、朝夕のスタッフの会議等でもですね、徹底をさせていただいたところでございますが、このたび何らかの形でその対応に不手際あったことにつきまして、おわびを申し上げると同時に、これからいずれにいたしましても、御利用者の方々に不快な思いをさせることがないように、今後とも丁寧な対応に努めてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

対応の指導はそういう形にやっているということはわかるんですが、今回のことはですね、それが徹底してなかったということなんですよ。まあ、もちろん徹底してあればそういうこともなかったかもわかりませんが、そのあたりのマニュアルとかそういうことはなかったんですかね。大体、そういうふうにするようになってたけどできなかったんですか。マニュアルとかつくってあるかどうか、そのあたりもお伺いしたいんですが。

○議長（杉原豊喜君）

井上教育部理事

○井上教育部理事〔登壇〕

マニュアルはつくってございまして、先ほど私のほうが申し上げましたお客様の対応、それそのものがマニュアルでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

マニュアルはあったけど、何も、そのマニュアルどおりになってなかったということですね。

市長、いかがでしょうか。

今の話を聞いてどのようにお感じになりますか。よかったらお願いしたい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これちょっといくつか問題がありましてね、これ私が知ったのが、この事案が起きたちょうど1カ月後なんですね。ですので、ちょっとこれはその組織としてどうかなということ、そしてCCCの高橋さんですよ、聡さん、のところに話が来たのもちょうど私と同じ1カ月後。ですので、こういった悪い情報というのは早く僕に入れてくれるということが徹底でき

なかったのは、それは私の、まあ能力不足だと痛感をして反省をしております。

そういった中で私自身、川原議員さんと一緒に謝罪をしたときに、さまざまなお叱りを賜りましたけれども、ほとんど、おっしゃるとおり。全部ですね。全部おっしゃるとおりだったんで、もう、ただただわびるしかなかったんですが、その中でいくつかちょっと、もう改善は、直接指示はしましたけれども、マニュアルが浸透していないということもさることながら、やっぱりですね、私も実はアラームが鳴ったことあるんですよ。アラームが鳴って、あけろと言われたときに、私も、その、みんなの前であけろと言われたわけですよ。みんなの前で。それはやっぱおかしかですもんね。少し、まあ別室はともかくとしてちょっと見えないところあるじゃないですか。そこであけるようにっていうことと違ってというのは、これはマニュアルの問題じゃなくて気持ちの問題なんですよ。ですので、そういったことは経験をしてもらうしかないと実は思っているんです。

ですので今回のその何かな経験が、入って1年目なんですねこの2人とも。2人とも1年目でそれはマニュアルどおりしたっていうことかもしれませんけど、そのマニュアルより大切なことが、これをその何かな、単に怒られたじゃなくてね、やっぱりこれを次に生かすということをぜひ、特にこの2人に関しては、あるいは指定管理者のCCCに関しても、あるいは所管の教育委員会に対してもね、まあもちろん私もそうですが、それは深く認識をする必要があるだろうと思っておりますので、まあいつもね、今後こういったことがないようにってあらゆる場で申し上げることになると思うんですけども、今回は本当に非常に深い教訓になったと思っておりますので、まあ改めてまた非常に不快な思いをされた方に改めておわびを申し上げたいとこのように考えておりますし、まあ今後二度とね、こういったことが起きないように、我々は確かにその来館者の皆さんへのサービスが高いということで、しかしそれを評価してない方々もいらっしゃいますので、そういった方々のお声にもっと深く耳をすますことをお約束をしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

そしてですね、先ほどの理事の答弁の中に、1日に2回から3回ほどそのアラームが鳴るということがあるということでございますので、そういうことならなおさらですね、十分な、本当は配慮をしなくちゃいけないと思っておりますし、そこでまあ提案といいますか、図書館の入り口のほうでも結構なんですけど、例えばその盗難防止装置がまれにですね、誤作動を起しますと。それでアラームが鳴る場合がありますが、そのときは御協力をくださいとかですね、何かそういった告示といいますかポスターといいますか、来館者に対してそういうことも貼っておればですね、来館者もそのときにびっくりすることも若干和らぐかもわからないし、スタッフの対応もですね、しやすいんじゃないかと思っておりますが、そういった部分の対応

というのはどんなでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは、するつもりはありません。

あくまでも、静かになって書くのと一緒なんですよ。

それはやっぱりね、人の気持ちの中に僕はなきやだめだと思っていますので、それはもし仮に万が一そうなった場合にはちゃんと対応するという事に尽きると思います。

鳴らないのに越したことはないですが、あくまでも機械ですので、私も誤動作もしたこと経験が何回か、やっば来れば来るほどその回数っていうのはふえると思うんですよ。

ですので、そうなったときに即座に温かい対応をするということですので私はそんな張り紙はするつもりはありません。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

市長はそう申されますけどですね、そういうその何ていうんですかね、初めてですね、そういうアラームが鳴った方なんか本当にびっくりされると思うんですよ。そいでまあ、結構年配の方特にですね、何のことやろかという形にもなりますし、何かそういう部分でですね、何か配慮ができないのかなということでお伺いしたわけですが。

まあそれは今のところできん、そういうことはやらないということですので、まあそれはそれで結構でございますが。

まあ冒頭に申しましたようにその、今武雄市図書館これ本当に全国的に注目を浴びて、来館者の施設面での満足度というのも本当にアップしたわけでございます。そういった中で今回のことは本当に大変残念でございますが、やはり接客業といいますか、今回のことはこの接客業の中の基本的な基本だと私は思っているわけでございます。

私も商売といいますか、した経験がちょっとございますが、そういう中で万引きとかなんとももちろんあるわけでございますね。でもその対応をどうするかで本当に違ってきます。

実際、こう捕まえてみたら取ってなかったとか、それですいませんでしたではなかなか済まないっていう部分もありますので、そういうことも含めて、今後十分注意していただいて、今まで以上にみんなに愛される、利用される武雄市図書館であっていただきたいとこのように思ったところでございます。

〔市長「はい」〕

では次に、ふるさと納税についてお伺いをしたいと思います。

このふるさと納税は平成 20 年 4 月に公布され、地方税法の第 1 部を改正する法律。これ

により個人住民税の寄付金税制が大幅に拡充され、地方間の格差や過疎などで税収の減少に苦慮する自治体に寄せ、寄付という形で貢献できる制度として始まったものでございます。

まあこのふるさと納税はこの言葉から、生まれ育った地域、つまりふるさとへの恩返しや地域で暮らす親への生活支援のために納税するように思われるわけですが、それではなくですね、自分が応援したい、例えば自治体、そして魅力のある自治体、そういったものにも寄付ができる制度でございます。

そこでまず武雄市のふるさと納税の現状について質問をいたしたいと思います。

まあ、ふるさと納税が始まった平成 20 年から平成 25 年までの件数と寄付の金額についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

武雄市におけます、ふるさと納税の実績でございます。25 年度までということでございます。25 年度までで 40 件、338 万 6,000 円の寄付を頂戴いたしております。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

6 年間で 40 件ですか、338 万 6,000 円ということですが、今回この質問をするにあたりですね、私もまあ佐賀県内の市町の状況ということでちょっと調べてみました。

県内で一番多いのが玄海町。これは 6 年間で 2 億 5,676 万。まあ 26 年度になっても 7 月末で 2 億 5,000 万。多分今だったらもう 3 億を超してるじゃないかと思いますが、そういう驚異的な額でございます。2 番が唐津市で、1 億 1,423 万。3 番目が多久市で、2,667 万。4 番佐賀市、1,572 万。5 番が小城市で、1,352 万。

このようにずっと続くわけですが、武雄市はですね、県内 20 の市町の中で、まあ 18 番とか 19 番ぐらいになってるんですね。

〔市長「今最下位です」〕（笑い声）

で、その寄付金も 6 年間で今のところ 338 万程度でございます。そういう状況でございますが、これは県内の自治体比べてですね、あまりにもこう少ないとそういうふうに思いますが、このふるさと納税制度が創設されてから、これまで武雄市としてどのような PR をして来られたのか、その取り組み等についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

先ほど答弁申し上げた件数と金額ですが、議員のほうの御質問、25 年度末でということ

御質問いただきました。ちょっと数字のほう年度途中まで、26年度途中までの集計を申し上げておりました。

25年度末におきましては39件、336万6,000円の寄付金をいただいております。

この制度開始してからですね、今日まで中心となりますのは市のほうのホームページ、こちらのほうにふるさと納税の御案内を差し上げてると。

あと、制度始まりまして数年間はお盆の時期、こういった時期等に駅等でチラシ等の配布をさせていただくといったような取り組みをさせていただいてるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番川原議員

○19番（川原千秋君）〔登壇〕

確かにですね、うちのほうもホームページ等に、武雄市まちづくり応援サイトという形で掲載もされております。

これちょっと私今聞き漏らしたかもわかりませんが、なんかその、ふるさと納税された方にお礼っていう部分はどうなるんですかね。そのあたりあったらお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

申しわけございません。寄付をいただいた皆様方のほうには、武雄市のほうで特産品化を取り組みましたレモングラス、こちらのほうをお送りさせていただいております。または市報、こちらのほうを1年間お送りをさせていただいております。（笑い声）（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

19番川原議員

○19番（川原千秋君）〔登壇〕

なかなか質素な。（笑い声）（「簡素、簡素」と呼ぶ者あり）

先ほど申しましたように県内状況ですね。寄付金が多いところは、本当にそれなりの努力をされているわけでございます。そういったのが今のふるさと納税の金額の結果に結びついているんだろうというふうに思いますが、ですからその寄付に対する、今レモングラスなんですけど、お礼にしても武雄市も特産品いっぱいありますので、それをいかにうまく使ってですね、そして寄付をされた方にお返しするときに本当に喜んでもらうような、そういった特産品をですね、ぜひ考えていただきたい。そういうのが自治体のアイデアとか企画力と、そういうのが問われる時代だと思いますので、その点についていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう反省しました。まさか最下位とはやっぱ思っていなかったですもんね。

ですので、ちょっといろいろ私どもでも調べましてね、ちょっとさっき紹介があったのかな、玄海町さんはもうあれですもんね、9,901件、2億4,000万、2億5,000万近くですね。

平成26年度、今年度ですよ、既に1万件越して3億円の寄付があるんですね。これ、何割かは返されているんですよ。4割か5割かちょっとわかりませんが、返されているんですね。ある意味これキャッシュバックと同じなんです。物産を返されているということ。

それと玄海の場合は、玄海にお越しいただくための旅行券も確か配っていたと思ってるんですけど、ただこれは実際の申し込みはほとんどないと、ゼロに近いということではほとんどが物産、海産物だっというふうに聞いています。

ですので、私どもとすればちょっとね4割から5割ちょっとお返しをするっていうこと、それと4割から5割で旅行券を発行するという、それでお越しになって来ていただいた方が加盟店で買っていただく。これは例がありましてね、武雄で買う券でしたかね。実際加盟しているところ、で、あともう少し昔でいうと地域振興券ですよ。っていうふうにして、加盟しておられるお店を買ってくださったらその分だけ市から補填をするということになる仕組みをつくる。で、これは市の持ち出しはゼロなんです。

要するに、全額損金算入で入ってきた部分の中の4割から5割をお返しするという、いづれにしてもなりますので、市民負担はゼロだということですのでこれについてはやっかいこうと。目標5億円。(笑い声)

先ほど副市長と人事の話をして、これのプロジェクトチームをあした付けで発足します。そのリーダーは山田恭輔さん(笑い声)にするということで、ふるさと納税のプロジェクトチームをあした付けで発足をして、これはメンバーは商工流通であるとか農林が入ってくるとは思いますけれども、ちょっと部を横断でしていくというふうにしていきたいなと思います。山田さんの働きぶりに皆さん注目をお願いをして、答弁を閉じさせていただきます。

○議長(杉原豊喜君)

19番川原議員

○19番(川原千秋君)〔登壇〕

ありがとうございます。早速、目標5億円ということで、本市もですね、優秀な企画力を持った職員さんがいらっしゃいますので可能かなと思っております。

本当、先ほど市長申されましたように玄海町ですね、本当すごいんですよ。私も——あれどこ行ったかな——玄海町のちょっと調べたんですけど、単位が違いますね、その寄付の単位が。やっぱりこれだけ億で集めると。

例えば100万円の寄付ですね、100万円、1人。一挙に100万円。これが玄海町いっぱいあるんですよ。(「ああ、そうそうそう」と呼ぶ者あり)

そして、その100万円に対してプレミアムプランといいますか、……(発言する者あり)

それがですね、毎月3万円分の例えば海産物とかそういったものを山のように特産品をお送りすると。毎月ですね、そやけん年間12カ月で12回、3万円分を送ると。これは金のプレミアムプランということで、お裾分けプランという形で作ってあるそうです。和牛からアワビとかフグ、フルーツそういうのを詰め合わせですね、送ってやると。

それからもう一つ、さっき市長おっしゃった体験型。確かにこれまだ少ないらしいですね。ほとんど、あまりないかもわかりません。

でもこれもですね、これは毎月1万円分の特産品を送るということにプラスして体験型ということで、福岡空港からの交通費、タクシー代の例えば5万円分のチケットとか、その中で滞在費とか飲食費、それから体験をされた方の体験メニューの、例えばシーカヤックですか、の体験とかフナ釣り体験とか、そういうのを全部含めての体験型プランというようなものをつくってあります。

そういったことで、全国的にもいろいろコースというのもされておまして、先ほど、まあ武雄市は温泉もございますので、例えばそういう温泉を絡めた宿泊券みたいな形もいいでしょうし、よそで人間ドックですね。も、やっているところもあるらしいですね。ですから1泊2日で人間ドック体験といいますか、そういうこともできると。それからゴルフのプレー券とかですね。

それから武雄は陶芸もございますので陶芸体験とか、そういった部分もいろいろあると思いますので、そのあたりについて市長いかがお考えかお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにですね、その中でちょっと伺った中では、若木ゴルフですよ。あそこが牟田議員がよく御存じだと思えますけれども、Tポイントレディスの関係でものすごく今、予約が殺到していて、結構ラウンドの維持が難しいぐらいにお越しいただくと、うれしい悲鳴が芝生とともにあがっているわけですね。ですので、そういった人気のあるものを優先的にプレミアムということでつけて出すというのはあると。

それともう一つ、顔の見える応援っていうのあると思うんですよ。例えば、ほかの市でも多分やっていると思うんですが、お米ですよ。要するに、例えばこの中でお米をつくっておられる方は誰かいますかね。（発言する者あり）山崎鉄好前副議長のお米を、例えば1年間ね、新米のときからずっと定期的に送り続けるということも、これはありだと思っているんですね。

その費用負担については先ほどふるさと納税から行うということで、議員がおっしゃるその体験型だったりとか、例えばね、もう一つは、うちはミシュランの5レッドスターズの竹林亭があるんですね。竹林亭に優先的に例えば泊まれるとか、御船山観光ホテルに泊まれる

とか。あとミシュランのお店がいくつかありますので、そういったものをうまく組みあわせて選択肢をふやそうと思っているんですね。

そういったことも含めて山田リーダーに（笑い声）考えてもらって、5億円をぜひ死守してほしいなとこのように思っています。

ですので議員の皆さんたちも、さっき上田議員からもちょっと聞きましたけど、どこかとタイアップしてとかっていうお言葉もありますので、ぜひ幅広くにアドバイスをいただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19 番川原議員

○19 番（川原千秋君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当にですね、こういう玄海町にしましても、驚異的な伸びというのは、これは全国のふるさと納税の特典情報というのを集めたふるさとチョイスというポータルサイトがあるわけですが、それを利用してですね、今やっているわけですね。それをこの全国の方が見てありますので、そういう特典とかなんとかのいいのがあったらもうほんと飛びついたような形で、今玄海町もそんだけの寄付金をいただいているということだと思います。

そしてもう一つはですね、そういうプランもさることながら、決済のほうもですね、クレジット決済もですね、今できるようになっておりますし、それから申し込みもそういうネットを通じての申し込みができると。そういう部分をIT環境を使ってですね、本当に簡単にしやすいような状況も今ありますので、そういうのも研究をされてですね、ぜひやっていただきたいと思います。

本当に全国的にはいろいろ成功事例もたくさんございます。そういった中で武雄市の特産品もたくさんございますので、そういうのをですね、活用するというはその生産者、例えば販売する方も利益が出る、メリットが出るということにつながっていきますので、ぜひそういう取り組みをお願いしたいと思います。

本当に1億円あれば、いろいろ引いても半分5,000万ぐらい残るわけですね。（笑い声）（「5億円、5億円」と呼ぶ者あり）5億円ね、2億5,000万。はい、ぜひよろしくお願ひしたいと思います

そういうことで、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、19番川原議員の質問を終了させていただきます。